

函館市医療・介護連携推進協議会 令和3年度第2回会議 会議録

■ 日 時

令和4年3月28日（月）19：00～19：35

■ 場 所

函館市医師会健診検査センター3階大会議室（田家町5-16）およびウェブ

■ 議 事

○報告事項

（1）医療・介護連携におけるID-Linkの普及に向けた動きについて

○協議事項

（1）令和4年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）について

■ 配布資料

- 1 医療・介護連携におけるID-Linkの普及に向けた動き
 - 2 令和4年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容
 - 2-2 令和4年度 多職種連携研修計画（案）
 - 3 ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター業務報告（令和3年度）
- 参考資料 福祉拠点の開設に関するお知らせ

■ 出席顧問・委員（16名）

（対面参加）

本間顧問，恩村委員，大泉委員

（ウェブ参加）

澤木顧問，熊川顧問，鈴木委員，水越委員，北村委員，岡田委員，崎野委員，阿部委員，渡部委員，小杉委員，寺田委員，保坂委員，齋藤委員

■ 欠席顧問・委員（1名）

氏家顧問

■ オブザーバー

（対面参加）

函館市医師会事務局，北斗市，ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

（ウェブ参加）

函館歯科医師会事務局，函館薬剤師会事務局，情報共有ツール有識者，七飯町

■ 事務局

（函館市）

氣田保健福祉部次長

市立函館保健所）山田所長，兵庫次長

地域包括ケア推進課）小棚木地域包括ケア推進課長，相澤主査，栗田

(函館市医療・介護連携支援センター)

岡和田センター長，佐藤係長，近藤氏，眞嶋氏，甲谷氏

高橋事務部長（函館市医師会病院），加藤医療・介護連携課長（函館市医師会病院）

■ 会議の内容

小棚木地域包括ケア推進課長

それではお時間になりましたので，ただいまから函館市医療・介護連携推進協議会の令和3年度第2回会議を開催させていただきます。まずは本日，こちらの医師会様から会場を快くお借りすることができました。このご厚情に改めてお礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございます。

本日の会議は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，この会議では初の試みとなりますが，希望された委員の皆様，ウェブにより多くご参加をいただいております。皆様，ネットワークの不具合等はありませんでしょうか。（なし）

それでは会議を進めさせていただきます。この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

本日の会議の欠席された方ですが，病院局の氏家顧問が欠席となっております。

次に前回会議の会議録ですが，事前に各委員の皆様にご確認させていただき，市のホームページ上で既に公開させていただいております。

次に本日の資料について確認させていただきます。事前に会議次第，資料1，資料2，資料2-2，資料3，また，参考資料として福祉拠点の開設に関するお知らせをお送りしております。ウェブにより参加されている皆様におかれましては，お手元に資料をご準備くださいますようお願いいたします。

また，本日の会議ではZOOMを使用しておりますが，これから議事を進めていく中で，質問や意見等の発言をする際には，事前にお知らせしております，ZOOMの「手をあげる」の機能をご利用のうえ，実際に合わせてのその場での挙手をお願いしたいと存じます。一応念のためですね，試行をさせていただきたいと思いますが，手をあげる機能をご利用願えますでしょうか。はい。左上に黄色い手があがったのがご覧になれるかと思えます。事務局みなさんの表示は大丈夫でしょうか。大丈夫ということなので，それでは会議を進めさせていただきます。進行は，大泉部長にお願いいたします。

大泉座長

それでは，次第に従い，議事を進めて参ります。初めに，報告事項（1）「医療・介護連携におけるID-Linkの普及に向けた動きについて」事務局から説明願います。

小棚木地域包括ケア推進課長

※資料1「医療・介護連携におけるID-Linkの普及に向けた動き」に基づいて説明。

大泉座長

ただいま事務局から説明がございました，「医療・介護連携におけるID-Linkの普及に向けた動きについて」の説明に関しまして，何かご質問等はありませんでしょうか。（なし）

それでは，報告事項（1）「医療・介護連携におけるID-Linkの普及に向けた動きについて」の議事は以上といたします。

続きまして、協議事項（１）の「令和４年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）」につきまして、センターから説明をお願いいたします。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

※資料２「令和４年度 多職種連携研修計画（案）」に基づいて説明。

大泉座長

センターからご説明をいただきました。ありがとうございます。ただいまの「令和４年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）」についての説明に関しまして、ご質問等ございませんでしょうか。何かございませんか。（なし）

それでは、協議事項（１）の「令和４年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）」についての議事は以上といたします。

続きまして、その他（１）の「ほくと・ななえ医療・介護連携支援センターの活動状況について」にまいりたいと思います。今年度は北斗市、七飯町において、昨年７月のセンターの立ち上げなど、医療・介護連携の取り組みに精力的に活動された年であります。前回の会議から、北斗市民生部保健福祉課と七飯町民生部福祉課の方々にお越しいただいておりますが、皆様に今一度改めて、ご紹介をさせていただきたいと思います。北斗市民生部保健福祉課の田中課長様です。

北斗市民生部保健福祉課 田中課長

田中です。よろしくをお願いいたします。

大泉座長

七飯町民生部福祉課の村山課長様です。

七飯町民生部福祉課 谷口係長

すみません。村山ですが、急きょ別の用務が入りまして、本日欠席となっております。よろしくをお願いいたします。

大泉座長

同じく七飯町の谷口係長様です。

七飯町民生部福祉課 谷口係長

谷口です。今日はよろしくをお願いいたします。

大泉座長

本日は北斗市の田中課長から、資料３の業務報告を、ご説明いただきたいと思います。田中課長、よろしくお願ひします。

北斗市民生部保健福祉課 田中課長

※資料３「ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター業務報告（令和３年度）」に基づいて説明。

大泉座長

田中様ありがとうございます。ただいまの、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センターの活動状況についての説明に関しまして、何かご質問等ございますでしょうか。(なし)
それでは、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センターの活動状況についての議事は以上といたします。

以上で本日の議事は全て終了いたしました。皆様から全体を通してですね、何かご意見等ございませんでしょうか。はい。本間会長お願いします。

本間顧問

今日は初めてのウェブ開催ということもございまして、なかなか活発に意見交換ができないというか、ウェブの会議というのも一長一短あると感じました。

ただいまのほくと・ななえ医療・介護連携支援センター様の話、これは地域医療構想の中で私共医師会は、道南を1つの広域、1つの形で見たいこうとしております。

例えばドクターヘリにつきましては、患者を1つの基幹病院だけに送るのではなく、それぞれの病院に運んでいる。多くの病院に患者を分散して送るという、全国でも初めての試みをしており、そういう関係もございまして、この医療・介護連携は、8年間の流れの中で非常にいい形が出来上がってきている。

特に函館市以外にも、北斗・七飯さんといっしょにやっていけるという、これがさらにもっと広く活用されていき、そして全て同じような流れの中で動いていくことを考えますと、やはり大きな道南の地域を1つのエリアとして見るというのが一番、理にかなっているなど改めて私も思うところです。

ですから、勉強会を実施するにしても、今、田中課長からお話がありましたけれども、北斗・七飯さんだけではなかなか人も集まらないし、講師の選定が難しいと。そういう様々なことをいっしょにやっていくということが、非常に大事になっていく。道南は広いですから、例えば会議についても、基本的には函館にお集まりいただくことになろうかとは思いますが、場合によっては江差や八雲で講演会を行うことも可能かなと思っています。

先ほどID-Linkの話も出ましたけれども、非常に素晴らしいサマリーができあがっていますので、これをぜひID-Linkに活用していく。ID-Linkを使えるということは広域で非常に使いやすいということになりますので、それが1つの形になっていく。おそらく全国的にもこういう展開をしている地域は少ないのではないかと思いますので、文明の利器をフルに活用して、よりやりやすいような形に持っていければなど考えています。いろいろな方のご協力のもと、やっていくというのが非常に大事だと思っていますので、特に地域医療構想という観点からも、この医療・介護連携というのは包括されるのだろうなど私共は考えています。

大泉座長

会長ありがとうございます。他にいかがでしょうか。全体を通してで構いませんが、何かご意見等ございましたらどうぞ。(なし)

それでは最後に、私から1つお知らせがございます。皆様にお配りしている資料の中で、両面カラーA4判の福祉拠点に関する資料をご覧いただければと思います。報道などで既にご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、本年4月1日、今週の金曜日ですが、市内に10か所ある地域包括支援センターが福祉拠点という形で生まれ変わってまいります。これまで地域包括支援センターは、高齢者の相談をお受けする窓口でございましたが、4月1日からは世代を問わず、困りごとを抱える方の相談をお受けする窓

口として機能を拡充し、8050問題、あるいはダブルケア問題などの複数分野の問題を抱える世帯にも対応してまいります。委員の皆様におかれましては、福祉拠点となる地域包括支援センターの運営に、さらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは以上を持ちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の令和3年度第2回会議を終了いたします。皆様、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。